

# 令和5年度 埼玉県学力・学習状況調査 結果について

- (1) 実施日 令和5年5月9日(火)
- (2) 実施学年 4～6年 個人の伸びを追跡し、児童一人一人の学力を確実に伸ばしていくことがこの調査の大きな目的です。中学入学後も3年間継続して行われます。
- (3) 実施教科 国語・算数
- (4) 調査の結果については下記のとおり(％は平均正答率を表しています)

## ①平均正答率と学力のレベル等

学年	4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数
埼玉県	63.6%	63.9%	62.7%	63.0%	60.8%	56.5%
狭山市	61.6%	63.4%	63.9%	65.2%	60.7%	54.7%
本校	65.4%	66.4%	67.6%	67.2%	63.9%	58.1%
県平均との差(R4)	+1.8%	+2.5%	+4.9%	+4.2%	+3.1%	+1.6%
学力のレベル	1～12の段階に分け、それぞれのレベルを更にA、B、Cに3分割して表す。 最上層は12-A。小4は1～7、小5は2～8、小6は3～9の範囲の中で表される。					
R5年度(県)	6-C	5-C	7-C	6-C	7-B	6-B
R5年度(本校)	6-B	5-B	7-A	6-B	7-A	6-A
R4年度(本校)	—	—	6-B	6-C	6-A	6-C
1年間の伸び	—	—	+4	+1	+3	+2

## ②考察

今年度の本校の学力結果は、平均正答率において全ての学年・教科で埼玉県平均値を上回りました。学力レベルから見ても、5・6年生ともに伸びが見られ、順調に学力を身に付けていることがわかります。

しかし、学校全体として、無解答率が、調査問題の終盤になるにつれ高くなっているという課題があります(全国学力調査も同様)。これは、時間内に終わらない児童が多かったということです。今後も継続的に問題をスムーズに読み進め、要旨を素早く捉える力と共に、見通しをもって問題に取り組む力の育成を図っていきたいと思います。

調査問題において、東小の解答結果から分析すると、各学年、次のような強み、弱みが見られました。

4年生	国語	強み	・指示語の役割と内容の理解 ・文を読み返し、より良い表現にする ・漢字の読み書き
		弱み	・漢字の音訓 ・接続語の働き ・話の内容の組み立てを理解する
	算数	強み	・小数の加法、2・3位数の計算 乗法の文章問題 ・三角定規の性質
		弱み	・分数の減法 ・正三角形、二等辺三角形 ・長さの単位の関係 ・三角形の作図
5年生	国語	強み	・文脈に沿った正しい漢字を使う ・漢字辞典の使い方 ・慣用句の意味 ・発表原稿の工夫
		弱み	・文章の中で説明と事例を正確にとらえる
	算数	強み	・除法の性質(計算の工夫) ・直方体の頂点の位置把握(空間把握) ・割合
		弱み	・数の相対的な大きさから小数を捉える ・折れ線グラフの読み方、書き方
6年生	国語	強み	・類義語、対義語 ・文の意味に沿って推敲をする ・修飾、被修飾の関係理解
		弱み	・副詞の理解 ・文の構成理解 ・敬語の種類
	算数	強み	・分数の計算 ・数量関係を式に表す ・公倍数 体積 展開図
		弱み	・小数と分数の関係について理解すること ・百分率 ・円グラフ

国語と算数の両教科において、概ね「知識・技能」に関わる内容は正答率が高く、一方で「思考・判断・表現」の内容では、平均値同等かそれを下回る傾向がありました。

国語では、漢字の習得や言葉の働きは理解しているが、文章の構成や内容の把握、表現の工夫は苦手であ

ること。算数では、計算や図形の構成理解、長さや重さの測定はできるが、言葉や数、図、グラフ等の相互関係を理解し、それらを適切に用いて解決することが苦手である、ということがいえます。

「知識・技能」と「思考・判断・表現」の力は、相互作用しながら身についていくものです。基礎的・基本的な知識・技能を着実に高めつつ、それらを活用できる場面を十分に確保し、課題解決や自分の思いを適切に表現することができるよう支援を継続していきたいと思えます。

学力学習状況調査の個人結果は、個人面談にて担任よりお渡しいたします。ご家庭におかれましては、結果をご確認いただき、お子様の学習状況を把握してください。

尚、問題につきましては、公表されません（返却もありません）。類似問題が以下のウェブサイト公開されております。ご活用ください。



<https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyou/images/fukusyuuusi-to2.html>

＊『県学力・学習状況調査の「復習シート」について』  
(埼玉県教育委員会)

# 令和5年度 全国学力・学習状況調査 結果について

- (1) 実施日 令和5年4月18日(火)
- (2) 実施学年 6年
- (3) 実施教科 国語・算数
- (4) 調査の結果については下記のとおり(％は平均正答率を表しています)

## ①平均正答率

教科	国語	算数
本校	67.0 %	62.0 %
埼玉県	68.0 %	62.0 %
全国(公立学校)	67.2 %	62.5 %
狭山市	65.0 %	58.0 %
全国平均との差	-0.2 %	-0.5 %

## ②令和5年度 問題の特徴

- ・国語：学習指導要領に示されている内容に基づいて、その全体を視野に入れながら、小学校第5学年までの内容から出題している。  
〔知識及び技能〕 (1)言葉の特徴や使い方に関する事項 (2)情報の扱い方に関する事項 (3)我が国の言語文化に関する事項  
〔思考力・判断力・表現力等〕 A話すこと・聞くこと B書くこと C読むこと
- ・算数：学習指導要領の第2章第3節算数における、「数と計算」、「図形」、「測定」、「変化と関係」、「データの活用」の各領域に示された指導内容をバランスよく出題している。小学校第5学年までの内容。

## (5) 調査結果より

今回の調査で見た本校児童の課題は、以下の3点です。

### ①思考力・判断力・表現力等

国語・算数の両教科とも思考力・判断力・表現力等の内容が大きな課題として表れていました。国語においては、「書くこと」の正答率が低く、それに伴って無解答率が高くなっています。児童は、自分の考えをもっているものの、目的や意図に応じて自分の考えをまとめたり、相手に効果的に伝わるように書き方の表現を工夫したりすることが苦手なようです。

これは算数においても同様に、記述式の問題で誤答や無解答が多く見られました。児童の多くは、問題に正答を出すことはできています。しかし、その計算の意味を式と言葉で記述したり、解答の理由を言葉と数を用いて記述したりすることが苦手なようです。

この結果から、授業の中で、相手の考えと比較しながら自分の考えをまとめる経験や、文章や話の組み立てを工夫して書いたり発表したりする機会をさらに増やし、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組んでいこうと思います。



### ②無解答について

昨年度と同様、本校の大きな課題の1つとして挙がるのが問題の終盤になるにつれ、無解答が多くなることです。児童は、問題を解く力は備えているものの、時間が足りずに最後までたどり着くことができていないということです。

分からない問題にも一つ一つ向き合って考えようとする本校児童の素直で真面目な良さがよく表れているようにも感じられますが、分からない問題に時間を取られて、正答できるはずの問題を落としてしまうことは、非常にもったいないことです。テストでの時間配分や分かるところから先に解くという判断も日々の学習の中で経験させていこうと思います。

### ③読書量の減少

質問紙の回答結果から最も気になったことが、「読書」にかかわる項目です。学校の授業時間以外に、1

日あたりどのくらいの時間、読書をしているか、という質問に対し、30分未満という回答が70%でした。これに比例して、学校や市の図書館を利用する回数も減少しています。

読書量は、語彙力の向上や思考力・想像力を養うことにも繋がり、①の「書くこと」にも関わりがあります。環境の変化に伴い、生活時間にゆとりがなくなっているのではないかと考えられますが、電子図書館や電子書籍等も利用しながら、「本に触れる機会」を増やしていこうと思います。



\*「令和5年度全国学力・学習状況調査の調査問題・正答例・解説資料について」  
(文部科学省国立教育政策研究所)